

島根県立石見美術館

コレクション展「石見人森林太郎、美術ヲ好ム」の開催について

島根県立石見美術館では、コレクション展「石見人森林太郎、美術ヲ好ム」を下記のとおり開催いたします。

記

1. 会 期 **令和7年5月8日(木)～令和7年6月23日(月)**

【休館日】火曜日

【開館時間】9：30～18：00（展示室への入場は17：30まで）

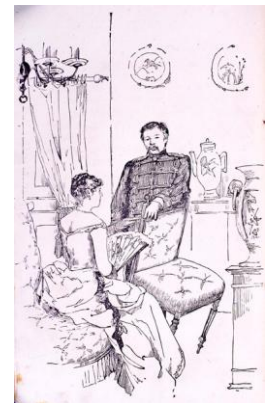
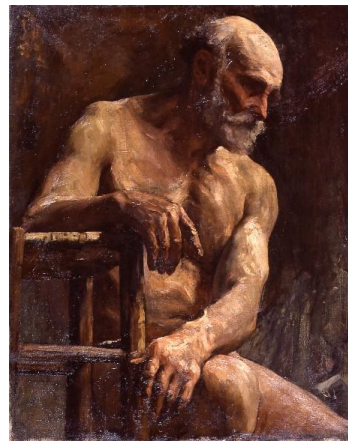
2. 会 場 **島根県立石見美術館 展示室A（グラントワ内）**

3. 概 要

当館では石見出身の文豪・森鷗外とゆかりのあった美術家の作品を収集、公開して参りました。今年で開館20周年をむかえるにあたり、改めて当館のコレクション（所蔵作品）により、森鷗外がどのように美術家たちと交際し、明治・大正の美術界と関わってきたかを紹介する展覧会を開催します。森鷗外は作家として、また軍医として知られていますが、美術に関する著作も多く、様々な芸術家とも交際を持ちました。本展では鷗外の著作から美術に関する記述を引用しながら、鷗外と交友のあった画家の作品や、画家が装幀、挿画を担当した鷗外の著書を展示します。

4. 展示点数 絵画（油彩画・水彩画）約20点、雑誌・書籍約15点（予定）

5. 主な展示作品



【左】黒田清輝《ポプラの黄葉》

鷗外がその華やかな画風に魅せられた、日本近代洋画の巨匠のフランス留学中の作品。

【中】中村不折《裸体》

鷗外の遺言により墓碑銘「森林太郎墓」を揮毫した書家であり洋画家でもあった中村不折のフランス留学中の作品。

【右】原田直次郎「文つかひ」挿画

鷗外の小説「文つかひ」に添えられた、親友・原田直次郎による挿画。主人公の顔が鷗外に似せて描かれている。

以上

< 取材をご希望の方は、前日までにご連絡いただきますようお願い申し上げます >

※別途、民間の配信サービスを利用し情報発信する予定です。

6. 関連プログラム

グラントワ開館 20 周年記念 MUSEUM×THEATER ミューシア vol.24

「初夏の朗読会 文学がいざなう美術への旅」

日時 2025 年 5 月 24 日（土） 15 時開演（14 時 30 分開場）

会場 グラントワ小ホール

出演 朗読 佐々木望（声優）、文学解説 美留町義雄（大東文化大学教授）、
美術解説・司会 川西由里（島根県立石見美術館専門学芸員）

【第 1 部】「うたかたの記」と森鷗外の青春時代

【第 2 部】文学がいざなう美術への旅

概要

森鷗外の「ドイツ三部作」を朗読と解説で味わう朗読会の第 3 弾。今回はミュンヘンを舞台とした日本人画学生とドイツ人少女との恋物語「うたかたの記」を紹介。親友の洋画家・原田直次郎を主人公のモデルとし、鷗外が留学中に謳歌した青春がしのばれるロマンティックな一篇。第 2 部では「美術」と「旅」をテーマに、ゲーテ（鷗外が翻訳）から安野光雅（鷗外と同じ津和野出身）まで古今東西の文学作品を紹介する。

出演者プロフィール

佐々木 望（ささき のぞむ・声優）

『幽☆遊☆白書』幽助、『AKIRA』鉄雄、『銀河英雄伝説』ユリアンなど多くの作品で主要キャラクターの声を担当。独特の存在感がある声で幅広い役柄を演じ分ける。英検一級、全国通訳案内士資格を有し、英語での吹替も行う。『きのう何食べた？』（よしながふみ原作）、『旅のラゴス』（筒井康隆原作）などの朗読公演で企画・演出・主演を務める。『マチネの終わりに』（平野啓一郎著）、『カササギ殺人事件』（A. ホロヴィッツ著）などオーディオブックの朗読でも好評価。近著に『声優、東大に行く 仕事をしながら独学で合格した 2 年間の勉強術』（KADOKAWA、2023）。

美留町義雄（びるまち よしお・大東文化大学 日本文学科 教授）

1967 年、東京都に生まれる。立教大学文学部ドイツ文学科を卒業し、同大学院文学研究科博士課程（ドイツ文学専攻）を満期退学後、日本学術振興会特別研究員（PD）を経て現職。森鷗外記念会常任理事。専門は日独比較文学・文化研究。著書に『鷗外のベルリン —交通・衛生・メディア』（水声社、2010）および『軍服を脱いだ外 —青年森林太郎のミュンヘン』（大修館書店、2018）がある。